座長コラム「長岡の風」

第１５回　２０２５年2月

「川底と川面」

長岡経済・産業連携会議　座長：髙野裕

①二つの報告

今日の２０２５年２月会議で二つの報告が気になった。

②保証協会

ひとつは、保証協会の報告で「代位弁済が減少し、内容が小口化してきている」という話である。これは、金融機関から中小企業者が借入をする際に、保証協会に保証料を支払うことで、保証協会が借入の債務保証をしてくれる。実際に借入をして保証料を支払いながら、借入金を完済すれば問題ないのであるが、借入金の返済ができなくなってしまった場合、その企業の債務を保証協会が肩代わりする。これが代位弁済である。この肩代わりするということは、借入をしていた企業は破産という状況になったということである。だから保証協会の代位弁済が増えるということは、その地域の企業に破産が発生しているということになる。

③小口化

この破産規模が小口化してきているという。ということは、大きな企業の倒産などではなく小さな企業の破産が増加していると考える。今回報告された保証協会の2025年１月の代位弁済実績をみると、長岡支店では４件の代位弁済が発生し2,344千円、その金額を１件当たりで計算してみると５８万円程度の数字が出て来る。

④高齢化と零細企業

５８万円の借金支払いができずに倒産したということになる。５，０００万円の破産などと言うのであれば、なんとなく経営が行き詰まったケースかなと思うのだが、５０万円台の破産だという。このくらいなら何とか返済できそうなのだが、これは、経営者が高齢化して後継者もいないため企業継続の意思が失せ、収入も年金だけというような状況で破産という手続きを行ったのではないかというふうに推察する。しかし本当のところはわからない。経営者の高齢化とデジタル化など時代の変化に対応できない零細企業のやむをえない選択による破産というイメージが湧いてくる。

⑤商工中金

もうひとつは、商工中金の報告である。国の補正予算成立にともなう補助金事業の活用状況の話だ。この度の国の補正予算成立によりいくつかの補助金事業がラインナップとなった。しかし、このような補助金事業が増えても、企業側のマインドが冷めていると、結局誰も手を出さないということがある。いくら国が補助金を出しても、「笛吹けど踊らず」という状況ではないかと思って質問してみた。

⑥中堅企業

　これらの補助金は引き合いがあるのかと。すると、中堅企業向けの１０億以上の補助金については引き合いがあるという。大きな補助金については中堅企業が反応しているという話だ。中小零細は積極的なマインドが生まれていないが、中堅企業等は積極的な反応がある。二極化というのか、格差というのか、そんな状況が生まれてきているのだろうかと思いながら報告を聞いていた。

⑦川底と川面

　日本経済がコロナ後流れが変わってきているように感じる。それは、川の流れの川底は光が届かずよどんでいるが、川面はDXやらAIやらの光を浴びて動き出しているのではないだろうか。そんなイメージを思わせる報告であった。